

医療福祉系高等教育機関に所属する学生のひきこもり親和性と

ソーシャル・サポートの関連

○ 北海道医療大学大学院看護福祉学研究科修士課程 氏名 米田 政葉 (008824)

志渡 晃一 (北海道医療大学・002478)

キーワード：ひきこもり親和性 ソーシャル・サポート 学生

1. 研究目的

本研究は、医療福祉系高等教育機関に所属する学生を対象とし、ひきこもり親和性(以下、親和性とする)と、身近な者からのサポートの充実度に関する主観的評価の関連を検討する。

2. 研究の視点および方法

近年、ひきこもり予防の視点から親和性に関する注目が高まっている。親和性とは、東京都(2008)により初めて提唱された4件法4項目からなる尺度である。ひきこもりに対する共感性や類似性を示すものであり、得点は4点から16点に分布する。15点以上の群をひきこもり親和群(以下、親和群)としており、ひきこもり予備軍的存在として指摘されている。

一般にひきこもる要因の一つとして、精神的健康との関連があげられる。内閣府(2010)でも、ひきこもり群、親和群は一般群と比較しうつ・罪悪感を抱えており、主観的な精神健康感が低いことが示されている。これまでの研究において、身近な者からの知覚されたサポートは精神的健康に対し良好な影響を与えることが明らかになっている。内閣府(2010)によると、日常の相談相手に関して友人と回答した割合が一般群と親和群では同程度であり、委員のコメントにおいて「ひきこもり親和群が実際にはひきこもらずにすんでいる1つの理由は、話のできる友人がいたことにあるものと推定される」と述べられている。しかし、親和性と身近な者からのサポートとの関連についての検討は十分になされていない。そこで、身近な者からのサポートの充実度に関する主観的評価に着目し、親和性との関連を検討した。

北海道内の医療福祉系高等教育機関に所属する学生を対象とし、2014年7月～8月に無記名自記式質問紙票による集合調査を行った。回答を得た281名のうち白紙や不備を除いた278名(有効回答率98.9%)を対象とし解析を行った。調査項目は、1)基本属性4項目、2)親和性に関する4項目、3)抑うつ尺度 日本語版20項目(the Center for Epidemiologic Studies Depression Scale: 以下CES-Dとする)、4)首尾一貫感覚日本語版13項目(Sense of Coherence: 以下SOCとする)5)日本語版ソーシャル・サポート尺度12項目である。東京都の調査と同様に、親和性を2群に分類し、15点以上の群を親和群と定義しこれを目的変数、他の変数を説明変数として、 χ^2 検定にて関連を検討した。

3. 倫理的配慮

本研究は論者所属大学の倫理委員会の承認を得て行った。対象者に1)結果の公表に当た

り、統計的に処理し個人を特定されることはない。2)調査によって得られたデータは、研究以外の目的で使用しない。3)調査に参加しないことで不利益を被ることはなく、かつ途中で同意撤回を認めるという条件を書面及び口頭で説明し、同意の得られたもののみ質問紙票に記入を依頼した。

4. 研究結果

対象の属性は男性 20.9%, 女性 79.1%, 平均年齢 19.6 ± 3.5 歳であった。

親和群の割合は 12.9%であった。また、男性 8.8%, 女性 13.3%であり、男女間に有意な差は見られなかった。

表 1 にひきこもり親和性と日本語版ソーシャル・サポート尺度の関連について示した。一般群と比較し親和群では、「私には喜びと悲しみを分かちあえる友人がいる」、「私には真の慰めの源となるような人がある」の 2 項目の該当率が有意に低かった。また、他の項目に関しても、すべての項目で、親和群の該当率が有意に低かった。

表 1. 親和性と日本語版ソーシャル・サポート尺度の関連 n (%)

	一般群	親和群	p
必要なときに、私の家族は私の心の支えとなるような手を差し伸べてくれる	192 (80.7)	27 (75.0)	0.50
家 私の家族は本当に私を助けてくれる	193 (81.1)	27 (75.0)	0.38
族 私は家族と自分の問題について話し合うことができる	160 (67.8)	20 (55.6)	0.19
私の家族は私が何か決めるときに、喜んで助けてくれる	172 (72.9)	22 (61.1)	0.17
私には喜びと悲しみを分かちあえる友人がいる	206 (86.6)	26 (72.2)	0.04
友 私の友人たちは本当に私を助けてくれようとする	201 (84.5)	26 (72.2)	0.09
人 私は自分の問題について友人たちと話すことができる	174 (73.1)	21 (58.3)	0.08
色々なことがうまくいかないときに、私は友人たちをあてにすることが出来る	185 (77.7)	25 (69.4)	0.29
大 私は喜びと悲しみを分かちあえる人がある	205 (86.1)	29 (80.6)	0.45
切 私には困ったときにそばにいてくれる人がある	201 (84.5)	27 (75.0)	0.16
な 私には真の慰めの源となるような人がある	189 (80.4)	21 (58.3)	0.01
人 私には私の気持ちについて何かと気づかってくれる人がある	192 (80.7)	25 (69.4)	0.13

※: 各項目について、1「全くそう思わない(いない)」、2「そう思わない」、3「あまりそう思わない」、4「どちらともいえない」、5「ややそう思う」、6「そう思う」、7「非常にそう思う」の7件法で回答を求め、5「ややそう思う」以上を合計した数値を記述

5. 考察

親和群は一般群と比較し、ソーシャル・サポートに関する主観的評価が低いことが明らかとなった。特に友人からのサポートに関して差が見られた。これは、内閣府(2010)の結果とも一致する。今後、性、年齢、学部別などに横断研究を行い詳細に検討していく事が課題である。